

## 種子島から得られた大隅諸島初記録のサクラダイ

吉田朋弘<sup>1</sup>・高山真由美<sup>2</sup>・本村浩之<sup>2</sup><sup>1</sup> 〒 851-2213 長崎市多以良町 1551-8 水産研究・教育機構 西海区水産研究所<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## ■ はじめに

サクラダイ属 *Sacura* は背鰭が 10 棘 14–18 軟条、臀鰭が 3 棘 7 軟条、胸鰭が 16–18 軟条、標準体長に対する体高の割合が 41–50% であること、第 1 鰓弓下枝の鰓耙数が 22–30 であること、舌上に歯板を欠くことなどで特徴づけられる (Heemstra and Randall, 1979)。現在までに、サクラダイ属は 5 有効種が知られており、そのうちサクラダイは日本、韓国、台湾、およびニューカレドニアと比較的広く分布する (Fricke et al., 2011; 瀬能, 2013) が、同属他種は局所的な分布を示し、*S. boulengeri* はオマーン湾とパキスタン、*S. parva* はティモール海、*S. sanguinea* はアンダマン海、および *S. speciosa* はインドネシア・セレベス・マナド湾から記録されている (Heemstra and Randall, 1979; Pomadakis et al., 2015; Motomura et al., 2017)。

これまでサクラダイは、国内において伊豆諸島、小笠原諸島、兵庫県から九州北西岸にかけての日本海沿岸、茨城県、相模湾から宮崎県の太平洋沿岸、鹿児島県本土（薩摩半島西側、鹿児島湾、大隅半島内之浦）、鬼界カルデラ、および琉球列島（トカラ列島中之島）から記録されていた (岩坪ほか, 2011; 瀬能, 2013; 吉田ほか, 2017; 畑, 2018)。

Yoshida, T., M. Takayama and H. Motomura. 2019. First record of *Sacura margaritacea* (Perciformes: Serranidae) from the Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 291–294.

✉ TY: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

Published online: 29 March 2019

[http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_045/045-050.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-050.pdf)

2019 年 2 月 10 日に大隅諸島種子島東方田之脇曾根において、サクラダイが 1 個体採集された。本標本は本種の標本に基づく大隅諸島からの初記録であるため、ここに報告する。

## ■ 材料と方法

計数・計測は Heemstra and Randall (1979) にしたがった。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、体色の記載に用いた生鮮時のカラー写真は同館の画像データベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：KAUM（鹿児島大学総合研究博物館）；KPM（神奈川県生命の星・地球博物館）。

## ■ 結果と考察

*Sacura margaritacea* (Hilgendorf, 1879)

サクラダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 128706, 体長 150.4 mm, 雄, 鹿児島県大隅諸島種子島田之脇曾根, 30°07'N, 131°33'E, 釣り, 水深 120–130 m, 2019 年 2 月 10 日, 中河輝幸。

記載 計測値と体各部の体長と頭長に対する割合を Table 1 に示した。背鰭条数 X, 17; 臀鰭条数 III, 7; 胸鰭条数 17; 側線有孔鱗数 28; 鰓耙数 11 + 23。

体長に対する体各部の割合 (%)：体高 43.4%; 頭長 34.0%; 胸鰭長 32.6%; 腹鰭長 27.1%; 尾柄長 21.1%; 尾柄高 13.0%; 背鰭第 1 棘長 5.2%; 背



Fig. 1. Fresh specimen of *Sacura margaritacea* from Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 128706, 150.4 mm standard length).

鱗第2棘長9.4%；背鱗第3棘長31.2%；背鱗第4棘長13.1%；背鱗第3軟条長48.3%；臀鱗長26.9%；臀鱗第1棘長7.4%；臀鱗第2棘長14.9%；臀鱗第2軟条長20.5%；腹鱗棘長17.0%。頭長に対する体各部の割合(%)：吻長26.0%；眼径26.4%；両眼間隔26.0%；眼後長48.1%；上顎長45.2%；主上顎骨長19.2%

体は卵型で側扁する。頭部背面は吻端から眼上にかけて緩やかに曲がるが、眼上付近でやや凹み、その後やや急に曲がり背鱗基底に達する。口は大きく斜位で、主上顎骨後縁は瞳孔中央を越える。前鼻孔は短い鼻管を形成し、吻端と眼窩前縁の中央より後半に位置する。後鼻孔は前鼻孔の斜め上後方、眼窩付近に位置する。主鰓蓋骨後端に3本の棘を有し、中央のものが最大である。前鰓蓋骨縁は鋸歯状で、後縁下端に2本の棘を有する。下鰓蓋骨下縁は鋸歯状である。両顎は絨毛状歯帯を有し、歯帯の幅は前方で広く、後方で狭い。上顎前方部の左右に1本のやや大きな犬歯状歯がある。下顎の先端に前方へ張り出す1対の大きな犬歯状歯があり、側方の中央付近に左右2対のやや大きな犬歯状歯がある。鋤骨と口蓋骨に絨毛状歯帯を有する。舌歯を欠く。側線鱗列は完全で、鰓

蓋上方から背鱗第6棘基底直下にかけて曲線をなすように上昇し、背鱗基底後端直下にかけて緩やかに下降し、その後体軸上をはしる。背鱗始部は鰓蓋上端直上に位置し、背鱗第3棘が最長で著しく伸長する。背鱗第3軟条が糸状に伸長する。腹鱗起部は背鱗第4棘基底直下に位置し、腹鱗先端は背鱗第2軟条基底直下に位置する。胸鱗基底上端は背鱗第4棘基底直下に位置し、胸鱗先端は臀鱗起部直上より前方に位置する。臀鱗起部は背鱗第4軟条基底直下に位置する。尾鱗は深く湾入し、上下葉の先端が糸状に伸長する。

**生鮮時の色彩** 下顎先端から上顎前方を横切り眼の下縁を通り、鰓蓋後端にかけて黄色帯がはしる。吻端付近から眼の上縁を通り、頭頂部にかけて黄色線がある。体側上方は黄色を呈し、背鱗基底部はやや黒色がかかる。胸鱗基底後方から体側中央部を経て尾柄部下方にかけては赤みを帯びた桃色を呈する。体側腹面は薄い桃色を呈する。銀白色斑が側線を挟むように不規則に体側上方に並ぶ。胸鱗基底上端から体側下方を通り尾柄部後端にかけて銀白色斑が不規則に並ぶ。背鱗鱗膜は薄い桃色だが、基部は黄色がかかる。背鱗第3軟条は黄色である。胸鱗は赤みを帯びた桃色で、黄色が

かる。腹鰭は黄色がかった桃色で先端に向かうにつれ赤色に近づく。臀鰭は黄色がかった桃色。尾鰭は黄色で、下葉は赤みがかかる。

**分布** *Sacura margaritacea* は日本、韓国、台湾、およびニューカレドニアに分布する (Fricke et al., 2011; 瀬能, 2013)。日本国内では伊豆大島 (加藤, 2014)、八丈島 (古瀬ほか, 1996; 加藤, 2014)、小笠原諸島 (座間・藤田, 1977; 菅野ほか, 1980)、茨城県 (舟橋, 1998)、神奈川県三浦半島南西部沿岸 (工藤・岡部, 1991)、三崎市 (山田・工藤, 2011)、相模湾 (林・西山, 1980; Senou et al., 2006)、駿河湾 (Heemstra and Randall, 1979)、静岡県熱海沿岸 (瀬能ほか, 1998)、大瀬崎 (霞, 1994)、三保 (鈴木, 1994)、三重県伊勢湾、和具沖、三木浦、二木島湾、および熊野灘 (片岡・富田, 1981)、和歌山県南部 (池田・中坊, 2015)、白浜 (Heemstra and Randall, 1979)、高知県 (Kamohara, 1958)、柏島 (平田ほか, 1996)、愛媛県宇和海 (辻・平松, 1987)、宮崎県折生追 (田中, 1921)、鹿児島県内之浦 (畑, 2018)、福井県 (手賀ほか, 2014)、京都府鷺崎沖 (田城ほか, 2017)、兵庫県浜坂町 (鈴木ほか, 2000)、山口県日本海沿岸 (河野ほか, 2011)、長崎県対馬 (青海ほか, 1977; Heemstra and Randall, 1979)、橋湾 (篠原ほか, 1988)、鹿児島県大隅薩摩半島西側 (岩坪ほか, 2011)、鹿児島湾 (岩坪ほか, 2011)、鬼界カルデラ (KPM-NR 101880)、種子島東方田之脇曾根 (本研究)、および中之島西方 (吉田ほか, 2017) などから記録されている。

**備考** 種子島から採集された標本は、背鰭棘数が 10 であること、背鰭軟条数が 17 であること、臀鰭軟条数が 7 であること、胸鰭軟条数が 17 であること、舌上に歯板を欠くこと、背鰭軟条が糸状に伸長すること、および尾鰭が三日月形で上下葉が伸長することなどから、瀬能 (2013) や吉田ほか (2017) が記載したサクラダイ *S. margaritacea* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。さらに、KAUM-I. 128706 (体長 150.4 mm; Fig. 1) は背鰭第 3 棘が著しく伸長すること、背鰭 7-10 棘間の鰭膜に黒色斑を欠くことなどが、瀬能 (2013) が示したサクラダイの雄の特徴と一

致した。

日本国内におけるサクラダイの分布は「分布」の項で述べたとおりであり、記載標本は大隅諸島における標本に基づく初めての記録となる。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、大黒丸船長の中河輝幸氏ならびに乗組員の皆様、種子島漁業協同組合の皆様には貴重な標本を採集・寄贈していただいた。標本の作製・登録作業などを手伝ってくださった原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまに厚く御礼を申し上げる。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学び ミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業 - B アジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- 青海忠久・道津喜衛・柳 昌之. 1977. 奄岐の魚類. Pp. 283-309. 長崎県生物学会(編). 奄岐の生物(奄岐, 対馬, 沖ノ島を含む). 長崎県生物学会, 長崎.
- Fricke, R., Kulbicki, M. and Wantiez, L. 2011. Checklist of the fishes of New Caledonia, and their distribution in the Southwest Pacific Ocean (Pisces). *Stuttgarter Beiträge zur Naturkunde A, Neue Serie* 4: 341-463.
- 舟橋正隆. 1998. 茨城県沿岸の魚類相. 茨城県自然博物館研究報告, (1): 75-96.
- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健. 1996. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, (17): 49-62.
- 畑 晴陵. 2018. ハタ科. Pp. 186-198. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之(編). 黒潮のあたる鹿児島湾の内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

- Heemstra, P. C. and Randall, J. E. 1979. A revision of the Anthiine fish genus *Sacura* (Perciformes: Serranidae) with descriptions of two new species. The J. L. B. Smith Institute of Ichthyology, 20: 1–13.
- 林 公義・西山喜徳郎. 1980. 西湘定置網で漁獲された魚類. 神奈川自然誌資料, (1): 15–27.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相. 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1–177.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 岩坪洸樹・出羽慎一・崎向幸和・伊東正英・古田和彦・本村浩之. 2011. 鹿児島県から得られたハナダイ亜科2種コウリンハナダイ *Pseudanthias parvirostris* とサクラダイ *Sacura margaritacea* の記録. Nature of Kagoshima, 37: 17–22.
- Kamohara, T. 1958. A catalogue of fishes of Kochi Prefecture (Province Tosa), Japan. Report of the Usa Marine Biological Station, 5(1): 1–76.
- 霞 朋敬. 1994. 大瀬崎の海. 伊豆海洋公園通信, 5 (7): 6.
- 片岡照男・富田靖男. 1981. 三重県の魚類相. 三重県立博物館研究報告 自然科学, 3: 1–109.
- 加藤昌一. 2014. ネイチャウウォッチングガイドブック改訂新版 海水魚 ひとめで特徴がわかる図解付き. 誠文堂新光社, 東京. 383 pp.
- 菅野 徹・倉田洋二・柳沢富雄. 1980. 小笠原諸島の魚類相概要. Pp. 119–155. 東京都立大学自然環境現況調査班 (編). 小笠原諸島自然環境現況調査報告書1. 東京都公害局, 東京.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, (9): 26–64.
- 工藤考浩・岡部 久. 1991. 三浦半島南西部沿岸の魚類. 神奈川自然誌資料, (11): 29–38.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>
- Motomura, H., Yoshida, T., and Vilasri, V. 2017. New species of the anthiadin genus *Sacura* (Perciformes: Serranidae) from the Andaman Sea. Zootaxa. 4306 (2): 291–295.
- Pomadakis, P. N., Osmany, H. B., and Moazzam, M. 2015. Field identification guide to the living marine resource of Pakistan. FAO species identification guide for fishery purpose. FAO, Rome. x + 386 pp., 42 pls.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏・牧内 元・武谷 洋. 1998. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく熱海産魚類目録. 神奈川自然誌資料, (19): 19–28.
- Senou, H., Matsuura, K., and Shinohara, G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with Zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389–542.
- 篠原現人・松浦啓一・白井 滋. 1988. 長崎県橘湾の魚類. 国立科学博物館専報, (30): 105–138.
- 鈴木敬宇. 1994. 静岡県三保の海. 伊豆海洋公園通信, 5 (12): 6.
- 鈴木寿之・細川正富・波戸岡清峰. 2000. 兵庫県産魚類標本目録—鈴木寿之コレクション兵庫県産編—. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第32集. 大阪自然史博物館, 大阪. 143 pp.
- 田中茂穂. 1921. 日本産魚類図説 第31巻. Pp. 559–582, pls. 142–144. 丸善, 東京.
- 田城文人・鈴木啓太・上野陽一郎・船越裕紀・池口新一郎・宮津エネルギー研究所水族館・甲斐嘉晃. 2017. 近年日本海南西部海域で得られた魚類に関する生物地理学的・分類学的新知見—再現性を担保した日本海産魚類相の解明に向けた取り組み—. タクサ, (42): 22–40.
- 手賀太郎・児玉晃治・木下仁徳. 2014. 福井県産海産魚類目録. Pp. 219–228. 福井県水産試験場 (編). 福井県水産試験場報告, 平成25年度. 福井県水産試験場, 敦賀.
- 辻 幸一・平松 亘. 1987. 宇和海産魚類目録—II. 南予生物, 2 (1–2): 1–15.
- 山田和彦・工藤考浩. 2011. 三崎魚市場に水揚げされた魚類—XVI. 神奈川自然誌資料, (32): 123–126.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. トカラ列島中之島から得られた琉球列島初記録のハタ科サクラダイ. Nature of Kagoshima, 41: 111–116.
- 座間 彰・藤田 清. 1977. 小笠原諸島産魚類目録. 東京水産大学研究報告, 63 (2): 87–138.